

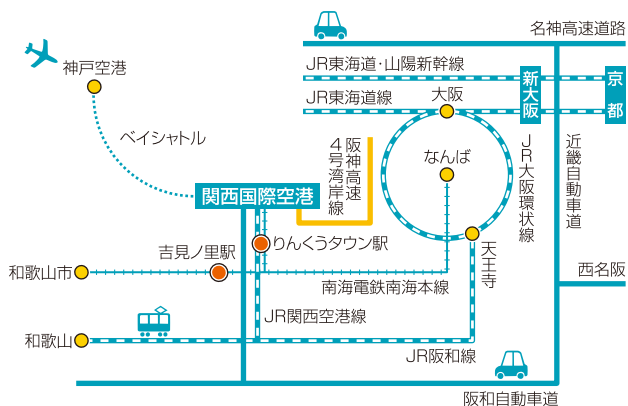
小さなまちに 大阪府 大きな魅力!

田尻町



田尻町へのアクセス

- 【お車で】 ● 阪神高速・湾岸線「泉佐野南出口」で降り、臨海線をそのまま進行方向に約3km。大阪市内からは約40分です。
- 阪和自動車道「上之郷IC」を経て、関西空港自動車道の1つ目の「泉佐野出口」で降り、りんくう南交差点を左折し田尻町へ。
- 【鉄道で】 ● JR関西空港線または南海空港線「りんくうタウン駅」から徒歩約30分。JR大阪駅から約60分、南海なんば駅から約40分です。
- 南海本線「吉見ノ里駅」から徒歩約5分。
- 【航空機で】 ● 関西空港からJRまたは南海で「りんくうタウン駅」下車、徒歩約30分。



小さなまち 田尻町観光のお問い合わせは

田尻町 産業振興課

大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺375-1

TEL.072-466-5008 FAX.072-466-5025

<http://www.town.tajiri.osaka.jp/>

企画編集

近畿観光まちづくりアドバイザー会議
〈国土交通省近畿運輸局内〉



小さなまちに  大きな魅力!

ドライブの途中やお買い物の帰り道、海沿いの遊歩道をたどる。白玉石を敷き詰めたビーチで、今日の思い出に自分だけの特別な石探し。身体いっぱい潮風を浴びながら、関西国際空港を離発着する飛行機をぼーっと眺める。漁師町の豪快なバーベキューに舌鼓をうったり、歴史を感じる洋館で美味しいもの、甘いものを食べたり…。お天気のいいこんな日は、りんくうタウンからのんびりトコトコ、シーサイドウォーキング。思わぬ“見つけもん”、うれしいお土産があるかも。小さなまちでお待ちしています。

気軽に!

くまなく歩こう TAJIRI

2~3時間で歩けます!

大阪府 田尻町 シーサイドウォーキングマップ



シーサイドウォーキング周辺の見どころ

田尻歴史館 (府指定文化財・近代化産業遺産)
☎072-465-0045

地図番号 12



綿紡績業で「綿の王」と呼ばれた谷口房蔵氏の別邸として、大正11年に建築されました。洋館と和館が連続して建てられたため、館内は綿花をモチーフとしたステンドグラスや西陣織の壁布などの意匠で飾られ、カフェでは優雅なひと時を過ごして戴けます。結婚式の披露宴や文化事業の発表会等にも利用できます。(大阪ミュージアム構想ベストセレクション)

泉州玉葱栽培の祖碑

地図番号 13



大正2年、今井佐治平、大門久三郎、道浦吉平、3氏のたまねぎ栽培の功績をたたえるため建てられました。全国でも珍しいたまねぎの碑です。(大阪ミュージアム構想登録物)

春日神社

地図番号 14



祭神は、武甕槌命(たけみかづちのみこと)、齋齋主命(いはいぬしのみこと)、天児屋根命(あめのこやねのみこと)などが祀られています。「宝亀年間吉見小佐治の来住して、この地を開発して一村をなしたるものなり」という。(万歳紀記)

嘉祥神社



本社には保食神(うけもちの神)が祀られており、徳川時代にはこのお宮のことを稲荷大明神と称しました。(本殿は、昭和51年大阪府有形文化財に指定)

田尻スカイブリッジ 地図番号 6

りんくうタウン北地区と中地区を田尻漁港を跨いで結ぶ位置にあり、全長338.1m、幅26.3m、往復4車線、高さ110mと国内でも大きな斜張橋で、景観も美しい橋です。(大阪ミュージアム構想登録物)



関西国際空港 ☎072-455-2500



日本初の24時間運用の海上空港として平成6年に開港いたしました。成田に次ぐ国内第2の国際空港で、展望ホール等の楽しめる施設や、見学ツアー等のイベントも充実しています。

マーブルビーチとりんくう公園

☎072-469-7717

地図番号 45



ビーチには白い大理石が敷き詰められ、背後には青い松林が続きます。関西国際空港を望みながらの夕景は最高の観光スポットです。



秋祭り



田尻町の秋祭りは、嘉祥寺地区の“だんじり”と、吉見地区の“やぐら”が一度に味わえるのが特徴です。特に関西国際センター前で、“だんじり”と“やぐら”がそろい、外国人留学生と交流する場面は、珍しい光景です。

グラシアス ☎072-466-0511



吉見の里駅前に“NPO法人田尻町まちづくり住民会議”が運営し、住民の集いの場として活用されています。また、喫茶や夜のライブイベント等の場としても活用されています。

田尻漁港(たじり海の駅)の観光メニュー 田尻海洋交流センター ☎072-465-0099 地図番号 910

田尻漁港マリーナ“たじり海の駅”
(大阪ミュージアム構想登録物)

関西国際空港の対岸に位置し、漁業はもちろん、漁業体験や日曜朝市、マリーナなどの事業を展開し、まさに「開かれた漁港」として多くの人たちが交流する場となっています。



日曜朝市

(大阪ミュージアム構想登録物)

毎週日曜日(午前7時~正午まで)、新鮮な魚介類や野菜、日用品などの朝市が開かれており、朝早くから大勢の人で賑わっています。また、この日曜朝市は、大阪府内のお魚市場の一つとして、大阪ミュージアム構想の食・生活部門で、「橋下大阪府知事イチ押し」のベストセレクションに選定されています。



漁業体験&海鮮バーベキュー
(大阪ミュージアム構想登録物)

田尻漁業協同組合が漁船を出して、漁業体験(刺網漁+かご漁)・関空クルージング・とれとれ海鮮バーベキューを行っています。小学生の遠足や修学旅行等にも利用されています。(要予約)



海釣りポイント田尻(釣堀)

(大阪ミュージアム構想登録物)

田尻の海で気分爽快フィッシング!初心者から上級者まで本格的な釣りが楽しめます。漁業体験や釣堀体験の後、獲ってきた魚介類などとともにバーベキューを楽しんでいただけます。(要予約)



りんくうゲートタワービル ☎072-460-1010

高さ256mの西日本最大級の高層ビルで、大阪南港に建つWTCと同じ高さです。52階から54階にはレストランがあり、ここから関西国際空港へ続くスカイゲートブリッジなど、ここでしか見れないすばらしい景色が堪能いただけます。



りんくうタウン駅周辺のショッピング施設



りんくうタウン駅周辺には、ホテルや飲食店、アウトレットモールなどの商業施設があります。特にお勧めはシークルにある観覧車から望む夕日です。夕暮れの観覧車にカップルで乗り、大阪湾に沈む夕日をバックに関西国際空港に離着陸する飛行機を見ていると、二人だけの世界に浸れること間違いありません。

田尻町 豆知識

小さな町の大きな魅力

田尻町は大阪府南部の泉南郡に位置し泉佐野市と泉南市に挟まれた、面積4.96キロ平方メートルの小さな町です。町の沖合い5キロ先に浮かぶ関西国際空港の中央部は田尻町に属しているため、空港島を除く実質的な面積は2.32キロ平方メートルとなり、日本で一番小さな町ということになります。そんな小さな町ですが、瀬戸内特有の温暖な気候で古くから農業、漁業が盛んでした。特に泉州たまねぎは田尻町が栽培の発祥地とされています。また、明治以降は繊維産業が発達し、町のあちこちに紡績工場がありました。現在は、ベッドタウンとして発展する一方、関西国際空港のお膝元として外国人留学生の研修施設「関西国際センター」が立地するなど、世界に拓くコンパクトシティという一面もあります。

綿の王

明治から大正時代を通じて関西繊維業界の中核を担い「綿の国から生まれた綿の王」と称された谷口房蔵（たにくち・ふさぞう）さんという方をご存知ですか？1861年（文久元年）、泉州日根郡吉見の里（現泉南郡田尻町吉見）に生まれ、15歳の時に人生の転機となる木綿と出会います。その後、中小紡績所の立て直しにあたり、1900年（明治33年）には大阪合同紡績株式会社を創立します。豊田式織機株式会社の設立・経営にも参画し、現在のトヨタグループの礎をついた豊田佐吉氏を支援しています。田尻村には谷口綿布工場（後の「吉見紡織株式会社」）を設立し、原綿を仕入れるため港や道路を整備したほか、教育費や土木工事費など村の基盤整備に多額の寄付をし、現在でいうところの「地域おこし・町おこし」として村財政を支援しました。また、鉄道の重要性にもいち早く気付いて阪和線（旧阪和電気鉄道）の導入に尽くすなど、様々な分野で貢献しました。1929年（昭和4年）に亡くなった後も、遺言で残された百万円で谷口財団を設立。以後70年間、ご子息の豊三郎氏が受け継ぎ、工業に関する研究を勧めその発達に資する研究やシンポジウムなどを助成し、戦後の日本を支えられたそうです。湯川秀樹氏をはじめ助成を受けた研究者にはノーベル賞や文化勲章を受章した人もいます。房蔵さんの業績は別荘として建てられた田尻歴史館でしのぶことができます。



0.2km 徒歩3分 ▲



0.1km 徒歩2分 ▲



0.2km 徒歩3分 ▲



0.2km 徒歩3分 ▲



0.1km 徒歩2分 ▲



10 田尻海洋交流センター(漁業体験:日曜朝市)



0.3km 徒歩5分 ▶



0.3km 徒歩5分 ▶



0.1km 徒歩2分 ▶



0.6km 徒歩10分 ▼



0.7km 徒歩10分 ▼



10 漁業体験(空港見学) ※要予約



0.1km 徒歩2分 ▶



0.2km 徒歩5分 ▼



0.2km 徒歩5分 ▼



0.2km 徒歩5分 ▼



0.2km 徒歩3分 ▼



9 田尻漁港マリーナ



0.2km 徒歩5分 ▼



0.6km 徒歩10分 ▼



0.7km 徒歩10分 ▼



0.2km 徒歩5分 ▼



0.1km 徒歩2分 ▼



8 関西国際センター



田尻町の特産

泉州黄たまねぎ

泉州玉葱栽培の発祥の地とされる田尻町では、古くから盛んに作られています。“幻のたまねぎ”と称される今井早生種は、球形は扁平で水分を多く含むため日持ちはしませんが、肉質は柔らかく甘み強い品種で、泉州黄たまねぎとして、なにわの伝統野菜にも指定されています。現在、田尻町では、今井早生の原種に近い吉見早生の復活栽培に取り組んでいます。毎年5月下旬には“泉州黄たまねぎ祭”を開催し、来場された方々から好評をいただいています。



泉州水なす

皮が非常に柔らかく水分が多いのが特徴です。昔は、田んぼ仕事の合間に手でぎゅっと絞り、なすから出る水分で喉の渇きを潤していたそうです。南泉州地域一帯で栽培されており、採れたてを使った“水なすの浅漬け”は全国的に有名です。



あなご

田尻漁港の水揚げランクで上位を占めるあなごは、天ぷらや蒲焼きでいただけます。日曜朝市では、トコ箱いっぱい敷き詰められたあなごがたくさん並び、名物“あなごの天ぷら”の揚げたてをご賞味いただけます。



泉だこ

流れが緩い泉州の海で育った泉だこは、風味がよい上に柔らかく、刺身やたこ飯でいただくのがお勧めです。7-12月が漁期で旬です。



いかなごのくぎ煮

カルシウムがたっぷり味付けも程よく、ごはんとの相性もぴったりの佃煮です。泉州沖では“春を告げるいかなご漁”と呼ばれ、毎年2月下旬から3月にかけて、生のいかなごがご賞味いただけます。